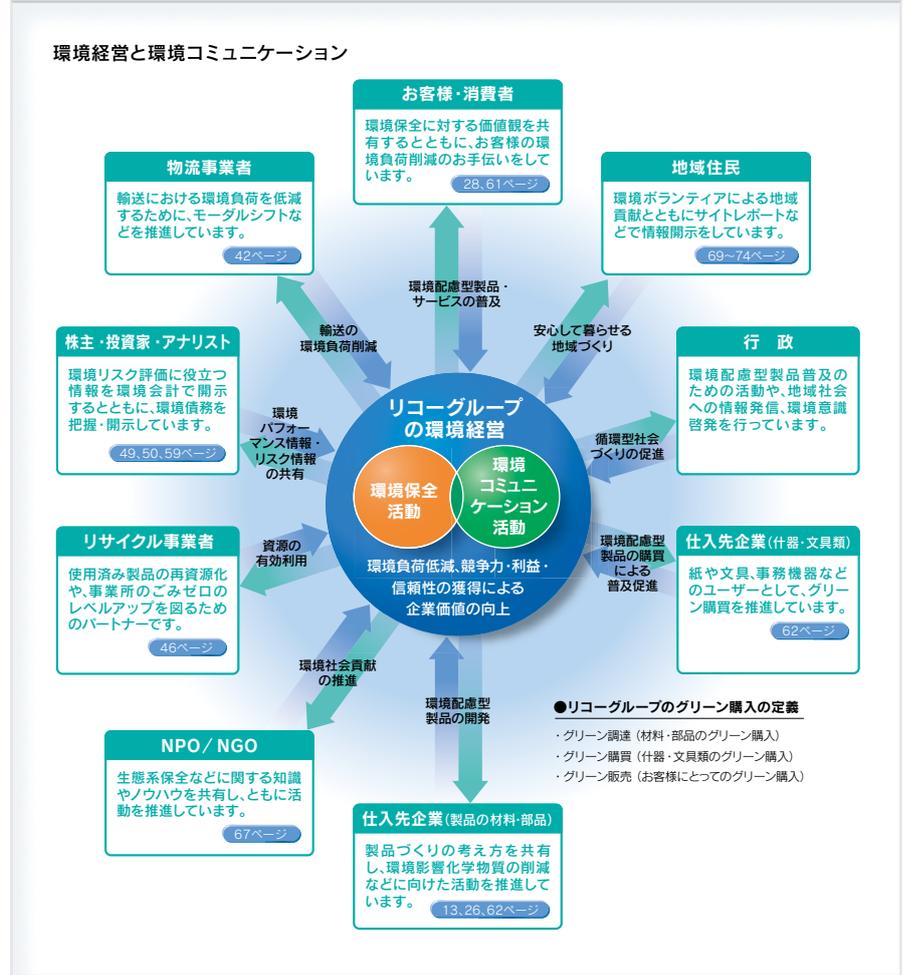


すべてのステークホルダーと真摯な姿勢で コミュニケーションを図り、環境経営の環を拡げていきます。

社会から存続を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し、循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを通して環境保全活動の環を拡げていきます。



お客様とのコミュニケーション

ライブオフィスのグローバル展開

《リコーグループ/日本・シンガポール》

リコーグループでは、ペーパーレス化やごみ分別によるリサイクルの徹底など、環境配慮型オフィスづくりを自ら実践し、そこから得られたノウハウをお客様と共有するために、「ライブオフィス」として公開しています。ライブオフィスは日本でスタートし、全国50カ所以上で展開しています。また、アジア・パシフィック極の販売統括会社リコーアジアパシフィック(RA)でもオフィスの環境対応を推進し、2004年度にシンガポール環境カウンセルより「エコオフィス認証」を取得。2007年度には、更新

認証を受けました。さらに、SAPアジアパシフィック様をはじめとする多くのお客様がRAのオフィスを訪問して環境負荷削減のノウハウを共有し、自ら環境対応オフィスを実現されるなどの事例も生まれており、環境経営の環が広がっています。



「エコオフィス認証」を取得したRA(シンガポール)



日本のライブオフィス(リコー販売)



カリフォルニア大学の校章
と総長事務局マネジャーの
Lesley Clark 様



INTERVIEW

お客様
に聞く

カリフォルニア大学 様

リコーグループは、世界中で積極的にグリーンマーケティングを展開しています。アメリカでは、リコーグループが実践する環境経営、製品やトナーカートリッジの回収・再利用・再資源化プロセスなどが評価され、商談の成功につながっています。また、環境経営のパートナーとしてサポートが求められるなど、グリーンマーケティングを通じて環境経営の環が広がっています。

環境に真剣に取り組むことで

将来を担う学生の意識啓発につなげています。

カリフォルニア大学のシステムは、環境科学・省エネ・持続的農業・グローバルスタディーズ・生態学の各分野において最先端の研究実績をあげています。10のキャンパスすべてにサステナビリティ・コミッティを設け、各キャンパスで環境問題に関する積極的な取り組みを推進しています。学生・教授会・理事・職員で構成される同コミッティは、地域社会および高等教育界においてリーダーシップを発揮し、地球環境の持続性の問題を強調するなど、地球環境の将来を担うカリフォルニア大学の214,000人の学生の意識啓発につなげています。

現在実施している用紙使用量の削減および環境負荷低減を目指すプロジェクトでは、PCW (Post-Consumer Waste: 使用済み廃棄物) 30%含有の再生紙の使用および両面プリントの励行を推進しています。カリフォルニア大学では、リコーグループの省資源・リサイクルへの取り組みを高く評価しており、職員・学生にリコー製品の環境性能を最大限にいかすために必要な教育を提供してくれることを期待しています。

仕入先企業とのコミュニケーション

仕入れ先企業へのごみゼロ支援

《リコーエレクトロニクス／アメリカ》

アメリカの生産会社リコーエレクトロニクス (REI) のカリフォルニア工場は、持続可能な社会づくりのパートナーを増やすというコンセプトのもと、仕入先企業のごみゼロ支援を展開しています。



ごみゼロを達成したメモリーエキスパーツ様とREI社員

2005年度のトリプルAコンテナズ様をはじめ、2007年度はメモリーエキスパーツ様、コピーU.S. 様の2社がごみゼロを達成しました。仕入先企業でも、ごみゼロはゴールではなく、環境保全とコストダウンなどの経済価値を生み出すためのツールという認識が広がっています。

グリーン購買

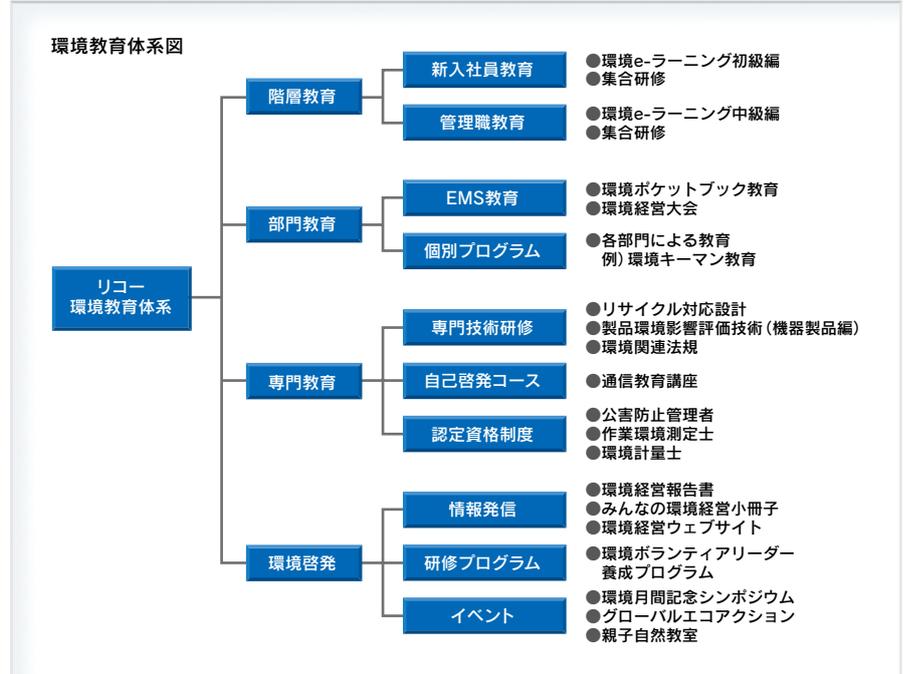
《リコーグループ／グローバル》

紙や文具、事務機器などのユーザーとして、環境配慮型製品を積極的に使用する「グリーン購買」を推進しています。国内のリコーグループは2002年4月に、紙、文具、事務機器、OA機器、家電製品、作業用手袋、作業服、照明の8分野を対象とする「グリーン購買ガイドライン」を策定し、海外の生産・非生産拠点でも独自の規準を設けて、グリーン購買を推進しています。

社員の環境教育・啓発

意識調査に基づいた教育施策の展開 《リコーグループ/日本》

全員参加の環境経営の実現には、トップの意思や各部門の積極的な活動はもちろん、自らの業務で環境経営を実践する社員の育成も重要です。全世界のリコーグループ約83,000人の社員の意識によって、同じ活動でも、その成果は大きく異なります。リコーグループでは、「環境意識が高い」とは環境に関する知識と具体的な行動がともなうことであると定義しています。業務に環境という視点を自発的に取り入れ、実践することができる社員の育成を目指し、定期的な社員の環境意識調査に基づいて、環境教育・啓発のためのさまざまな施策を実施しています。



2007年度リコーグループの環境意識調査の実施

2007年度は、リコーグループと他企業の環境意識の比較調査を実施しました。これは他社の社員(従業員数1,000人以上規模で機械・IT系上場企業の社員約500人)に対し、リコーグループと同等の調査を行うことで、リコーグループ社員の意識・行動の特徴を明確にするとともに、他社との相対的な意識レベルの差を図る目的で行ったものです。今後はこの調査結果を踏まえ、教育プログラムを計画していきます。

2007年度調査結果(抜粋)

●企業の環境保全と利益創出の考え方について、あなたの考えに最も近いのはどれですか？

- A 環境保全活動を通して利益を創出させる必要がある
- B 環境保全活動を通して利益を出すことは、できればよいが絶対ではない
- C 環境保全活動は、それ自体が赤字でも実施しなければならないことである
- D わからない



リコーグループ社員は他企業社員に比べて、「環境保全と利益創出を同時実現する」という、環境経営の基本的な考え方をより強く意識している。

社員向け環境e-ラーニング 初級編・中級編

《リコーグループ/日本》

2006年度、リコー社員を対象に社内LANを通じたe-ラーニング初級編「環境経営はじめの一歩」を実施しました。内容は「地球環境保全における企業の使命」「各部門の環境経営活動事例」などで、環境経営への理解と意識を高めることが目的です。2007年度は、国内グループ社員を対象を広げ、2008年4月には、リコー各部門の管理職や環境推進担当者を対象に、業務の中への効果的な環境視点の取り入れ方、環境経営の効果把握方法などを内容とするe-ラーニング中級編を開始しました。



リコーグループ環境経営大会

《リコーグループ／グローバル》

2008年2月、「第14回リコーグループ環境経営大会」を開催しました。今回はリコー大森事業所を本会場に、リコー本社事業所とリコーテクノロジーセンターの二つのサテライト会場に同時放映を行い、合計470人の社員が参加しました。テーマは「一人ひとりが今何をすべきか考え、16次中期環境行動計画達成につなげていこう!」。日本科学未来館の毛利衛館長による講演「地球生命の挑戦」と桜井会長の「ポスト京都議定書の動向」に引き続き、2007年度までの環境経営の成果*1の振り返りと2008年度から始まる16次中期環境行動計画*2の説明が行われました。また、「第6回リコーグループ環境経営活動賞」の表彰式も行われ、大賞に「製品リサイクルにおける環境保全と事業創出の両立による環境経営の実践」*3が選ばれました。最後に近藤社長が総評を述べ、「省エネルギーをもう一段高い志で進めよう」と大会を締めくくりました。

*1: 23ページ *2: 21ページ *3: 31,32ページ



近藤社長の総評を聞くリコーグループ社員

欧州環境大会

《リコーグループ／欧州》

2007年5月、オランダ・ハルテレンで「欧州環境大会」を開催しました。欧州極16カ国35社の販売会社・生産会社から環境・リサイクル担当者70人が参加し、15次中期環境行動計画の振り返りと、16次中期環境行動計画の目標達成のための方針戦略の確認や、各国の優秀事例発表、ステークホルダーとの関係構築などについて、活発な意見交換が行われました。昨年に引き続き、大会開催にともなって発生するCO₂を植林によって相殺する活動を行いました。今年はCO₂だけでなくNO_xやSO_xなどの温室効果ガス全般の排出を相殺する「クライメイトニュートラル」により、合計804本の植林を実施しました。

中国環境大会

《リコーグループ／中国》

2007年11月、中国極の販売統括会社リコーチャイナ (RCN) 本社ビルで、「第1回中国環境大会」を開催しました。中国のグループ会社社長、環境担当者、セールスマンおよびサービスマンなど143人が参加しました。テーマは「開発・設計、調達・生産、販売・サービス、物流の四位一体による環境経営とグリーンマーケティングの推進」。それぞれの機能をもつ会社の代表が、自社の環境保全活動について発表しました。また、RCN、上海リコーテ

ジタル機器 (SRD) が委託する中国有数のリサイクル企業を参加者全員で訪問し、見学しました。現在、中国では急激な環境意識の高まりがあり、RCNは環境スローガン「私たちの中国、私たちの地球の環境を守るために!」を掲げ、環境経営で業界をリードしていきます。



環境関連技術研修講座の開催

《リコーグループ／日本》

環境経営を推進するためのスペシャリストとして、それぞれの職場で、環境に配慮した物づくりや、適切な化学物質の管理を行えるよう、LCAやリサイクル対応設計などの環境関連技術研修講座を実施しています。

環境関連技術研修講座(受講者数)

講座名	2007年度 受講者数(人)
ライフサイクルアセスメント(LCA)(基礎)	30
ライフサイクルアセスメント(LCA)(応用)	10
サプライ製品安全(初級)	20
サプライ製品安全(上級)	36
環境関連法規	64
騒音(基礎)	31
リサイクル対応設計	35
OA機器における熱設計	17
リコーグループ製品含有化学物質 マネジメントシステム(概要)	24
合計	267

子どもたちとのコミュニケーション

日本科学未来館「コピー機フシギ展」

《リコー／日本》

2007年6月～8月、東京・お台場の日本科学未来館にて、「コピー機フシギ展」を開催しました。このイベントは、コピー機に应用されている科学の原理の面白さと地球環境保全の大切さを伝える体験型の展示イベントで、子供から大人まで

の幅広い年代の方にお楽しみいただけるものです。連日、子どもたち、家族連れ、修学旅行生などさまざまな方々がフシギ体験を楽しみ、開催70日間の総来場者数は約7万人に達しました。このイベントは、2006年10月にリコーが日本科学未来館と締結したオフィシャルパートナー契約に基づいて開催したものです。



親子自然教室の実施

《リコーグループ/日本》

2007年7月、リコーとC.W.ニコル・アファンの森財団の共催による「第6回リコー親子自然教室」を長野県黒姫にあるアファンの森で開催しました。このイベントはグループ社員とその家族に自然の大切さを体感してもらうことを目的にした1泊2日の自然体験プログラムです。アファンの森は、作家のC.W.ニコル氏が「日本の森を再び野生動物と人が共生できる豊かな森に戻したい」との思いで20年前から荒廃した里山を少しずつ購入し、天然林の復元を進めており、当日は親子9組24人が「昆虫探検隊」「アートセラピー」「森の宝物探し」などのプログラムを通じ、豊かな森の自然を存分に体験しました。



生徒、児童の環境活動を支援

《リコーアメリカズコーポレーション・リコー/グローバル》

米州の販売統括会社リコーアメリカズコーポレーション(RAC)は、「ISEF (International Science & Engineering Fair)」のメジャースポンサーです。ISEFとは、世界最大級の高校生による科学コンテストで、アメリカだけでなく世界40以上の国と地域から約1,500人の生徒が参加しています。RACは2005年から「リコー・サステナブル・デベロップメント賞」を設け、環境保全とビジネスの両立に寄与する研究に贈っています。2007年度のも最優秀賞は、エリカ・E・デヴィッドさん、ジェスパー・L・ラスムセンさん、マイケル・K・マドセンさん、特別賞はアシュトシュ・パトラさん、パーカー・



(左から)RAC社員、Erica Elizabeth Davidさん、Jesper Lykke Rasmussenさん、Michael Kaergaard Madsenさん、Ashutosh Patraさん、Parker Owanさん

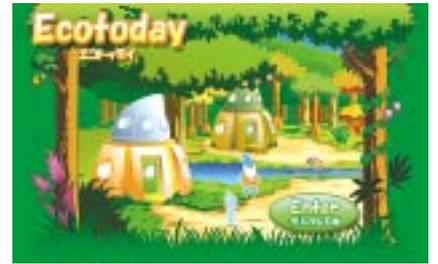
オーワンさんでした。またリコーでは、日本全国の小・中学校が実践しているエコ活動とエコをテーマにした作文を顕彰する「学校自慢エコ大賞」に協賛しており、2008年3月に第4回の表彰が行われました。

子ども向け環境ホームページの公開

《リコー/グローバル》

リコーの環境ホームページでは、子ども向け学習サイト「Ecoday テンペル・タツルストーリー」を公開しています。ここでは、ロシア、ガーナ、マレーシア、日本などでリコーが支援している森林生態系保全活動の内容を易しく解説。クイズやゲーム形式で楽しみながら環境問題について学ぶことができます。

※ <http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecoday/>



環境経営情報発信

環境経営報告書の発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年報告書を発行しています。2004年度からは、サステナビリティ環境経営報告書の発行時期と発行部数

		発行日	部数	ページ		発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版	1999.1	26,200	30P	リコーグループ 環境経営報告書 2003	日本語版	2003.6	21,770
	英語版	1999.1	500			英語版	2003.9	7,000
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版	1999.9	51,300	32P	リコーグループ 環境経営報告書 2004	日本語版	2004.6	18,790
	英語版	1999.9	8,375			英語版	2004.9	7,000
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版	2000.9	45,950	60P	リコーグループ 環境経営報告書 2005	日本語版	2005.6	18,535
	英語版	2000.12	6,800			英語版	2005.9	7,000
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版	2001.9	25,950	74P	リコーグループ 環境経営報告書 2006	日本語版	2006.6	18,270
	英語版	2001.12	7,000			英語版	2006.9	7,000
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版	2002.7	21,315	84P	リコーグループ 環境経営報告書 2007	日本語版	2007.6	17,700 (2008年4月発行)
	英語版	2002.9	6,000			英語版	2007.9	7,000

※ 2005年版から中国語版をホームページ上で公開しています。 <http://www.ricoh.com/environment/report/pdf2007/china/all.pdf> (2007年版)

レポートとして、環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポートの3つの報告書を6月に発行しています。第11回環境報告書賞では、環境経営報告書2007が最優秀賞を受賞しました。リコーのサステナビリティレポートは、ホー

ムページで請求することができます*。

* <http://www.ricoh.co.jp/about/request/index.html>

環境サイトレポートの発行

《リコーグループ/グローバル》

リコーグループでは、地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段として環境サイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン*」を作成し、グループ内で運用しています。リコー福井事業所は、第11回環境報告書賞でサイトレポート賞を受賞しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

環境ホームページの公開

《リコー／グローバル》

リコーの環境ホームページ*は、事業所での取り組み、製品の環境情報や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作しています。英語版ホームページも開設しており、各国の関連会社にもリンクしています。2007年度は、日本語ホームページを訪れた皆様からリコーグループの環境経営についてご意見をいただくWebインタラクティブアンケートを開始しました。第1回は「リコーグループ超長期環境ビジョン」に対するご意見を募集しました。5カ月弱の期間中、276の方がアンケートに回答し、62%の方が超長期環境ビジョンに「共感する」とお答えくださいました。また、「短期的利益目標でなく、長期的視点・地球規模にたちバックキャストिंगで目標設定している点を高く評価します」「企業が利益と環境負荷絶対量の削減を両立できることを証明し、内外に示してくれることを期待します」などのご意見をいただきました。Webインタラクティブアンケートによる有効回答率は94%に達しました。今後も継続的に実施し、皆様のご意見を環境経営にいかしていきます。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/>

環境広告の実施

《リコー／グローバル》

リコーの環境広告では、リコーの環境経営のコンセプトを、実際の活動事例に基づいてお伝えするようにしています。2007年度は、「持続可能な社会」をテーマにした環境広告を実施しました。これは、リコーが考える環境負荷の少ない持続可能な社会コンセプト「コメットサークル」を紹介し、これに基づいて実施しているさまざまな環境保全活動を

訴求したものです。環境広告は、日本はもちろん海外でも実施しています。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/communication/adv.html>



環境経営の事例を紹介する雑誌広告



環境啓発を目的とした雑誌広告

展示会への出展

《リコーグループ／日本》

2007年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会「エコプロダクツ2007」に出展しました。リコーの出展テーマは「環境経営の環を拡げる」で、リコーが目指す地球の姿を紹介するとともに、環境経営に関わる技術や製品、取り組みについて総合的に展示しました。最終日には、福田康夫首相がリコーブースを訪れ、リライタブルメディアコーナーで、アイロンの熱で文字が消える様子を体験されました。



書かれた文字をアイロンで消す福田首相

外部講演

《リコー／日本》

リコーでは、環境経営の環を拡げる目的で、企業、団体などあらゆる方面に向けた講演を行っています。社員が自らリコーグループの環境保全活動を紹介し、皆様の活動実践の参考にしていただくことを目指しています。主な内容は、環境経営の考え方、本業に関わる環境保全活動、環境社会貢献活動（森林生態系保全＋環境ボランティア）などです。2007年度は、国・地方公共団体、商工会議所、企業、大学など、合計で33回の講演を行いました。



講演するリコー社員
(環境コミュニケーションシンポジウム:主催 環境省ほか)

地球環境月間シンポジウム

2007年6月、東京・お台場の日本科学未来館にて「リコー地球環境月間シンポジウム」を開催しました。2回目となった今回は「企業活動と生態系・生物多様性の保全の両立を目指して」をテーマに企業、NPOの方々が講演やディスカッションを行いました*。

* シンポジウムの詳しい内容は、[68ページ](#)で紹介しています。

